

野々村

# 仁清 と その時代

2016年

11月3日「木・祝」

12月22日「木」

前期 11月3日(木・祝)～11月27日(日)

後期 11月29日(火)～12月22日(木)

※作品保護のため、一部展示替えがあります。

〔休館日〕 11月28日(月)

〔開館〕 午前10時～午後5時  
(入館午後4時30分まで)

〔観覧料〕 一般 700(550)円

大高生 450(350)円

中学生以下無料

※( )内は20名以上の団体料金

〔主催〕 公益財団法人 香雪美術館、朝日新聞社



香雪美術館

KOSETSU MUSEUM OF ART

左：重要文化財 野々村仁清「色絵鱗波文茶碗」北村美術館蔵 右：野々村仁清「金襴手四方水指」

# 仁清とその時代



野々村仁清は、雅な作風を持つ江戸時代の陶工として知られていますが、その生涯や多様な作品像については、いまだ研究の途上にあります。

江戸の初期、丹波国桑田郡野々村（現在の南丹市美山町大野）に生まれた仁清は、京都に上り、瀬戸で修行を積んで正保年間（一六四四―四八）頃、京都・御室の仁和寺門前で開窯。その際に、仁和寺の一字を拝領して「仁」と、名の「清右衛門」の「清」の字をあわせて「仁清」と称したといえます。茶人金森宗和の指導によって生み出された数々の作品は、後水尾天皇をはじめとした宮廷や大名家で重用されました。

華麗な金銀彩や絵付けがほどこされた色絵陶器をはじめ、唐物の写しや蒔絵を応用した文様など優美な色彩感覚と卓越した轆轤の技は、他の追随を許しません。その多彩な技法は今に受け継がれ、京焼の祖とも称されています。

仁清はまた、自分の作品に「仁清」の印を捺し、「作家（芸術家）」と「工房のブランド化」の意識をもった最初期の陶工でもあるといえます。

本展では、仁清作品とその時代背景などを紹介します。



## 関連イベント

### 梅園会（講演会と茶会）

日時：11月3日（木・祝）

講演会：午後1時～／茶会：午後3時～

講演：「仁清のやきものとは何か？」

講師：兵庫陶芸美術館 学芸員 梶山博史氏

定員：50名（応募多数の場合は抽選）

参加費：3,000円

※「野々村仁清とその時代」展の入場料を含みます。

### 【参加申込方法】

往復はがきに住所・氏名（返信用にも）、電話番号を明記のうえ、下記宛先まで

お送りください。はがき1枚につき1名のみ申込みできます。

申込み受付後、参加費事前入金のご案内を書面にて連絡いたします。

〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1

香雪美術館「梅園会」係

【申込締切】10月7日（金）必着

### ギャラリートーク

会期中の毎週土曜日 午後2時～

学芸員によるギャラリートークを行います。

※ギャラリートークの聴講は無料ですが、別途展覧会の鑑賞券が必要です。

- ① 野々村仁清 「色絵忍草文茶碗」
- ② 野々村仁清 「色絵武蔵野文茶碗」 湯木美術館蔵
- ③ 狩野探幽 「牡丹図」 後期展示
- ④ 重要美術品 長谷川等伯 「柳橋水車図屏風」 前期展示
- ⑤ 野々村仁清 「色絵丸文茶器」 湯木美術館蔵

- ⑥ 野々村仁清 「白釉獅子鈕蓋砂金袋水指」 湯木美術館蔵
- ⑦ 野々村仁清 「鱗香合」
- ⑧ 「山吹螺細絵茶」
- ⑨ 野々村仁清 「色絵扇面文弧形香合」 北村美術館蔵
- ⑩ 野々村仁清 「鴨香炉」



阪急「御影」駅南改札口より東南徒歩5分  
JR「住吉」駅より北西徒歩15分  
阪神「御影」駅より市バス19系統で「阪急御影」下車、徒歩5分  
美術館には専用駐車場はありません。ご来館は電車・バス等をご利用下さい。

## 香雪美術館

〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1

Tel. 078-841-0652

<http://www.kosetsu-museum.or.jp>

次回展 「香雪美術館 所蔵品展2017」(仮)  
2017年1月21日(土)～2月26日(日)